



カ
レ
シ
に

親
友
の

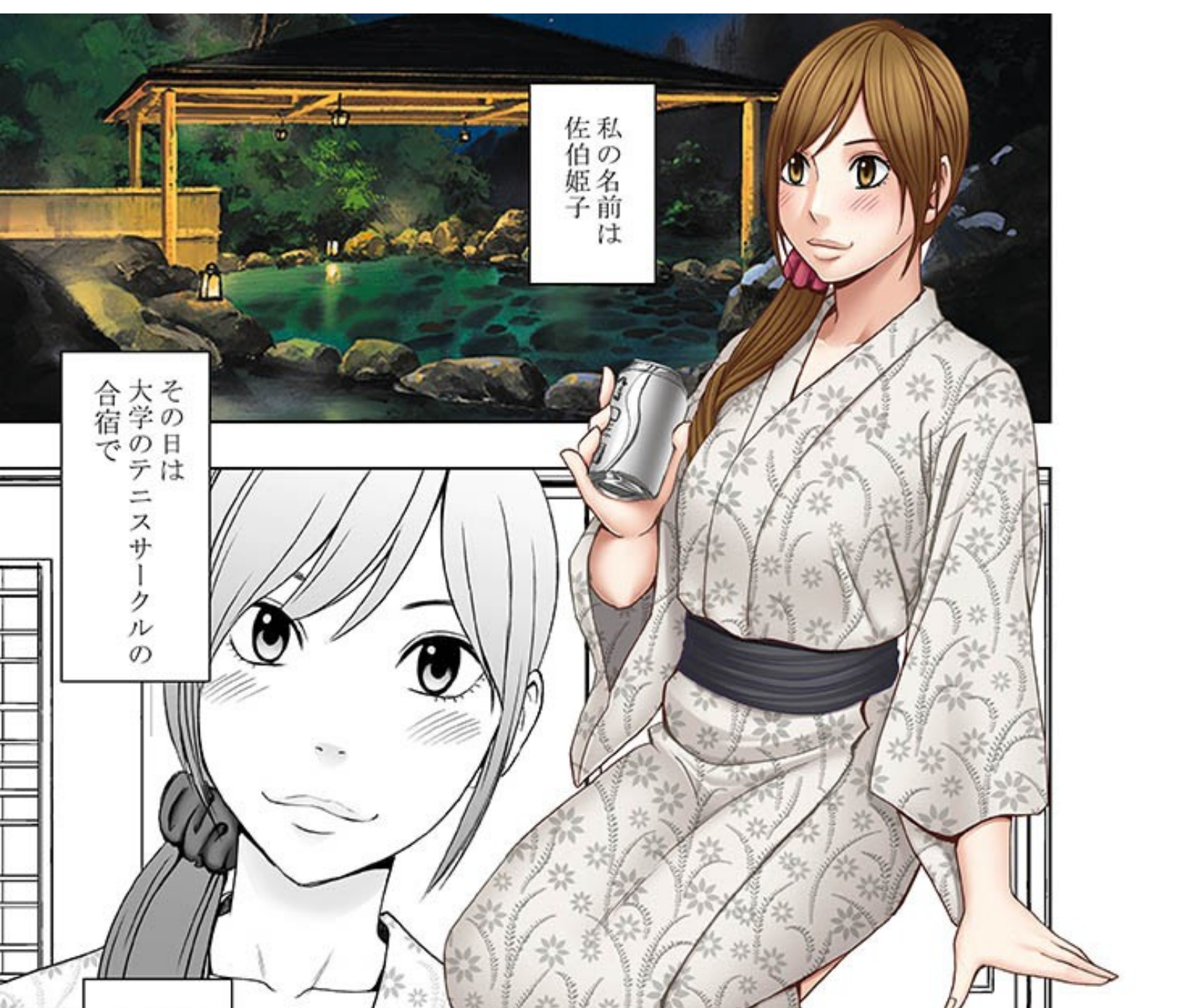
犯
さ
れ
た
私

温
泉
旅
館
編



親友のカレシに犯された私
～温泉旅館編～





私の名前は
佐伯姫子

その日は
大学のテニスサークルの
合宿で

郊外にある
温泉旅館に
みんなで来ていた

姫子はまだ
入っていないでしょ？

いや、
今回の合宿は
なんととっても
温泉だよな

ホント
露天風呂で
サイコーだったわ

うん
あとで
入るつもり



彼女は真知子
私の親友

でさー
それですさー

真知子はとっても
イイ子なんだけど



真知子の
カレシは

最低の
チャラ男で



あれ以来
その男とは

会ったりは
してなかったん
だけど…



以前 私は
そいつに

真知子のいない
ところで
ひどいことをされて…





成り行きで
3人で飲み始めて…

できさ…
ウチの親がさ…

…って
わけなんだよね

そのまま
そいつは居座って



1時間後…



何食わぬ顔で
真知子と私の前で
楽しそうに
おしゃべりとかしてて…

前回
あんなにひどいこと
やってきたクセに



真知子
真知子

あれ？
おい

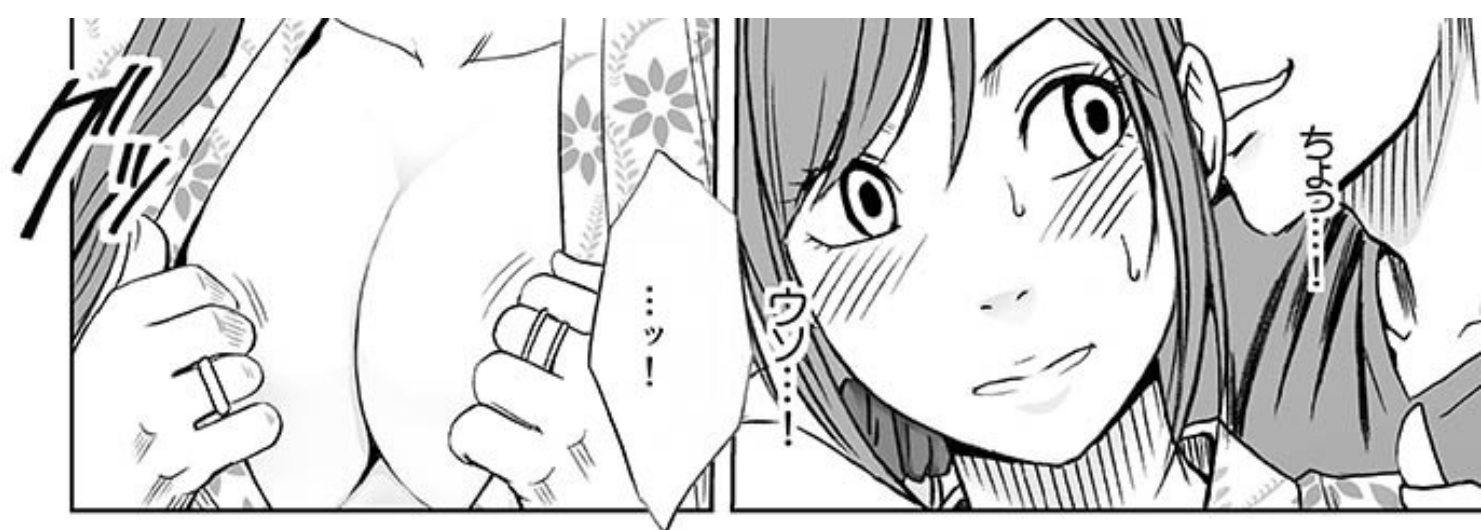
お…お…



その場で寝始めて

真知子は
酔いつぶれて



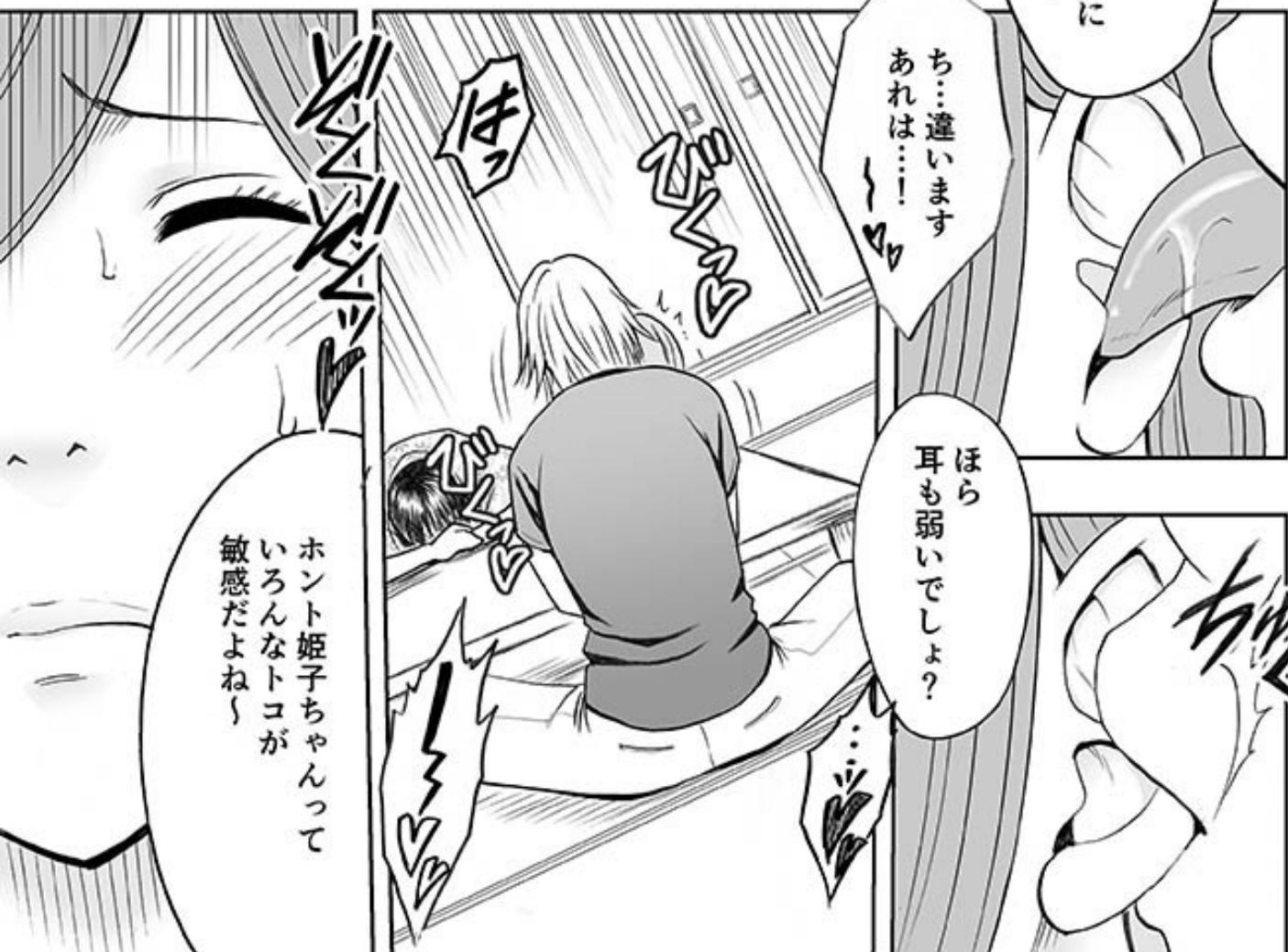




ダメ！
ダメです！
んっ♡

んっ
何がダメなの？

前回だって
あんなに
気持ち良さそうに
してたじゃん？



ちゅっ
ち…違います
あれは…!!
んっ♡

ほら
耳も弱いでしょ？

ホント姫子ちゃんって
いろんなトコが
敏感だよねっ



でも一番弱いのはユユだよ〜

チク・ビョ

びゅん

ほらほらこうされるのがイイんでしょ?



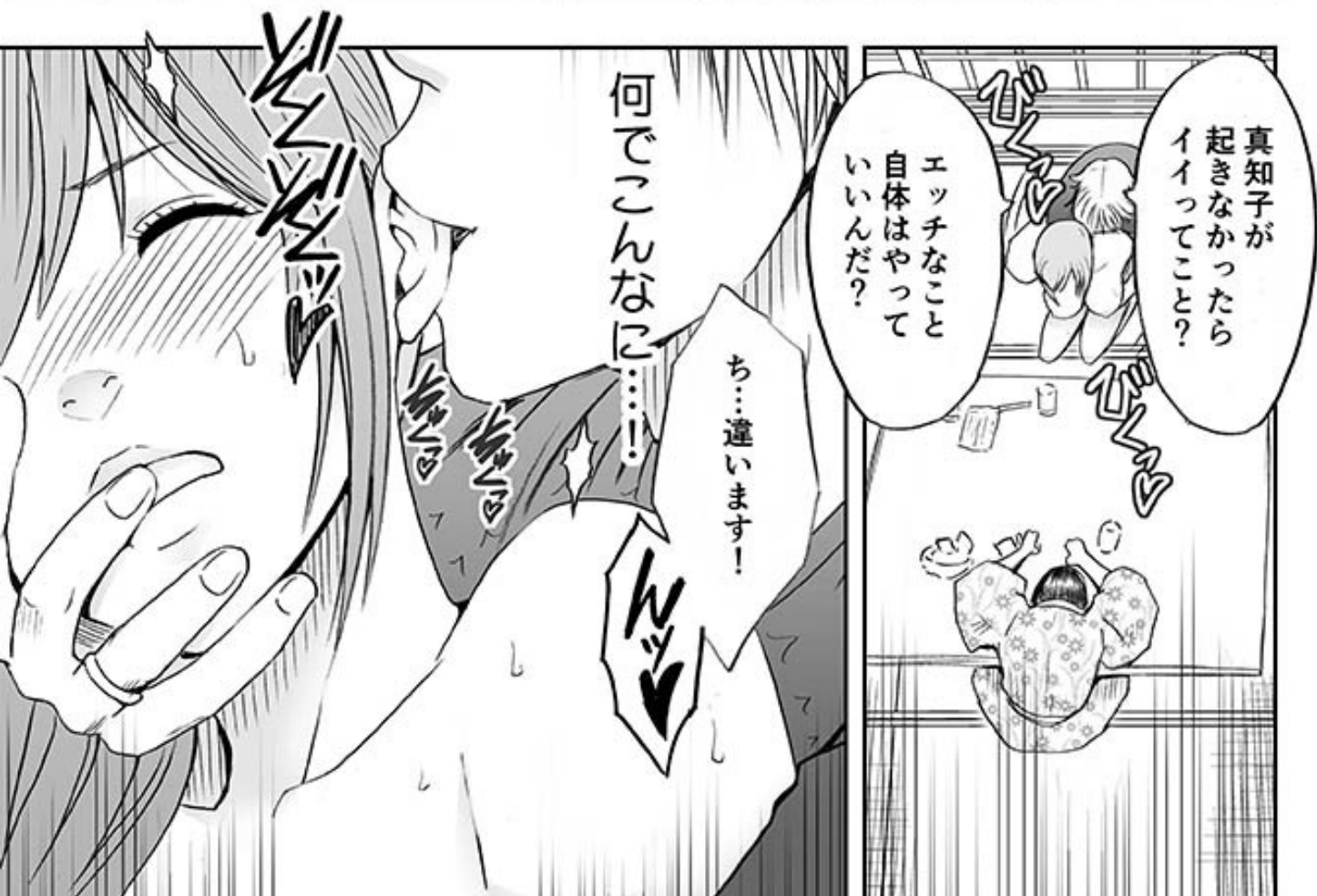
ダメ...!!

...

浴衣が腕に絡まってうまく抵抗できない!

声...出ちゃっう!!

これ以上...大きな声出したら...!!



ダメ…!

これ以上させたら…!

んゝ
大丈夫大丈夫
ワスワス

姫子ちゃんがおっきい声
出さなければ
起きないから

私のカラダは…!

また…!

やっぱ
姫子ちゃん
敏感だねゝ

クワクワ

クワクワ



姫子ちゃんの
敏感エロエロボディ
なら

簡単に
イッちゃうでしょ？



こんなこと
ダメだって

分かんない……

……んんん



この前のアレで
一晩中
遊び続けて

あめっ……！
姫子ちゃんの
弱点はもう
全部分かってるからね

カラダが熱い……！

こんな状況で
イカされるなんて……！



ダメえッ！



あゝ
このカンジ

もうイキそ

びびる



ヤッ！
びびる





こんな最低の男に……!

これ以上は
やばい……



悔しい……!

何でまた
こんな奴に……!



そう思った私は
残った力と
抵抗の意思を
振り絞って

その部屋から
逃げ出した



いったん
温泉の女子更衣室に
逃げ込んで……



何とか
そいつの手から
逃げ切った私は

イカされて
火照ったカラダを
落ち着かせるために

この後どうするか
温泉にでもつかりながら
考えようとした
その時：

真知子が起きている
温泉でぬい
じまじかないか…
部屋に戻る
わはははかない

あ、
姫子ちゃん
見つけ

ドキッ

…

大丈夫
大丈夫
こんな時間
誰も来ないって♪

さっきの続き
しようか？

やっ！

ちよっ…！

こっ
女湯ですよ！

い…
いやです！

もういいです
から！ あっ♡

びびり

びびり

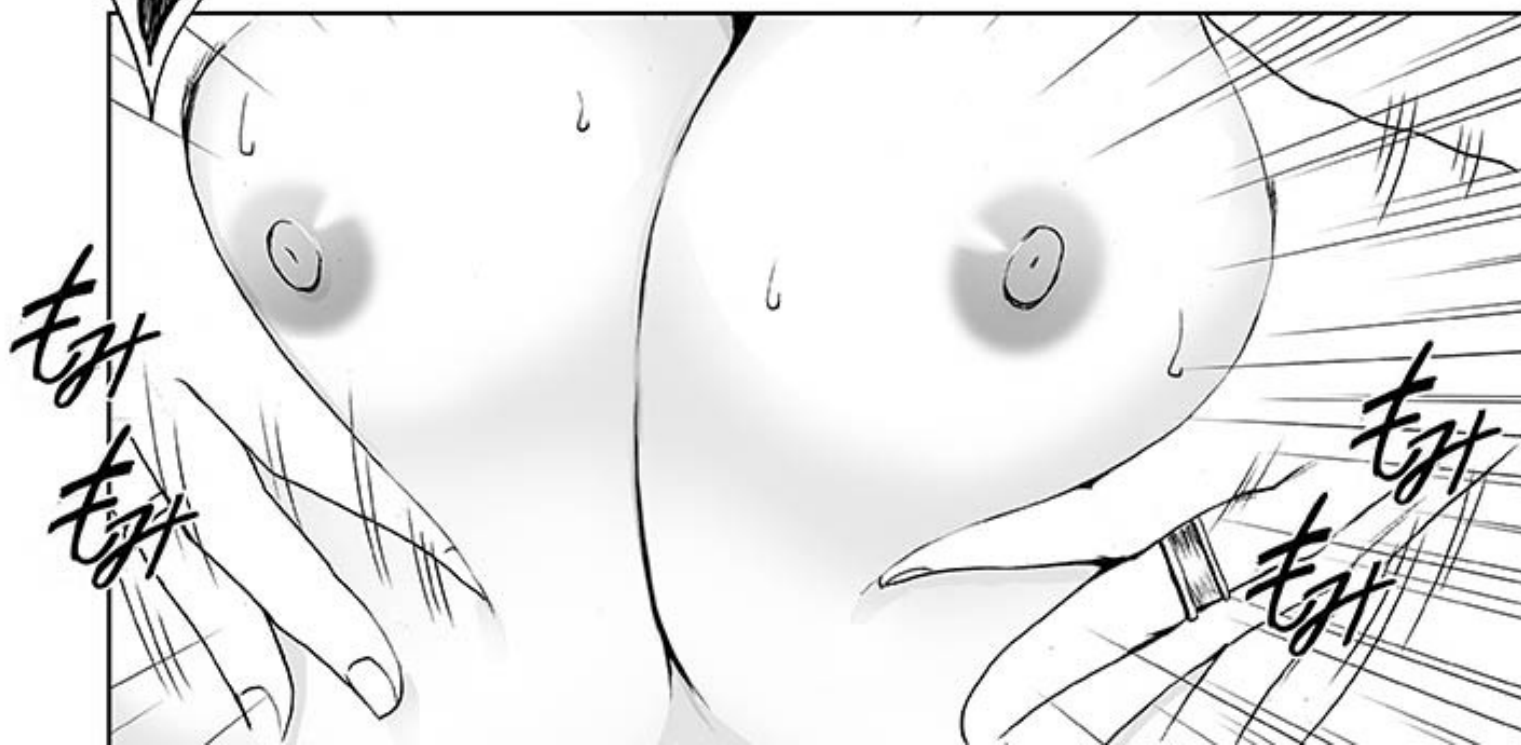
びびり
びびり
びびり

そのまま
私は
強引に更衣室の奥に
押し込まれて

…あ♡

素っ裸にされて
責められはじめて





さっきは
イッてたんでしょ？

イカされて
気持ち良かったん
でしょ？

だったら
今度はオレの
番だよ？

オレも
姫子ちゃんのナカで
イカせてよ♪

じゃないと
不公平でしょ♪

ああーダメー！
そこは…弱いからッ！





やっ! はっ!
何考えて...!

そんなの
絶対にダメですから...!

また...
この人のペニスに!

何で
抵抗できないの!??

またまた
姫子ちゃんって
H好き
でしょ?!



OK~♪
ホントに
イヤなら
1分でイカされたりなんか
しないよね

そんなの!
もう
イキません!
もう
こんなこと...!

じゃあさ
1分以内に
イッたら
入れていい?
やっ...!





い...いやです!
もう
ダメ...!

あゝ
イッたゝ

じゃあ
約束どおり...

私はまた
カントンに
イカされてしまった

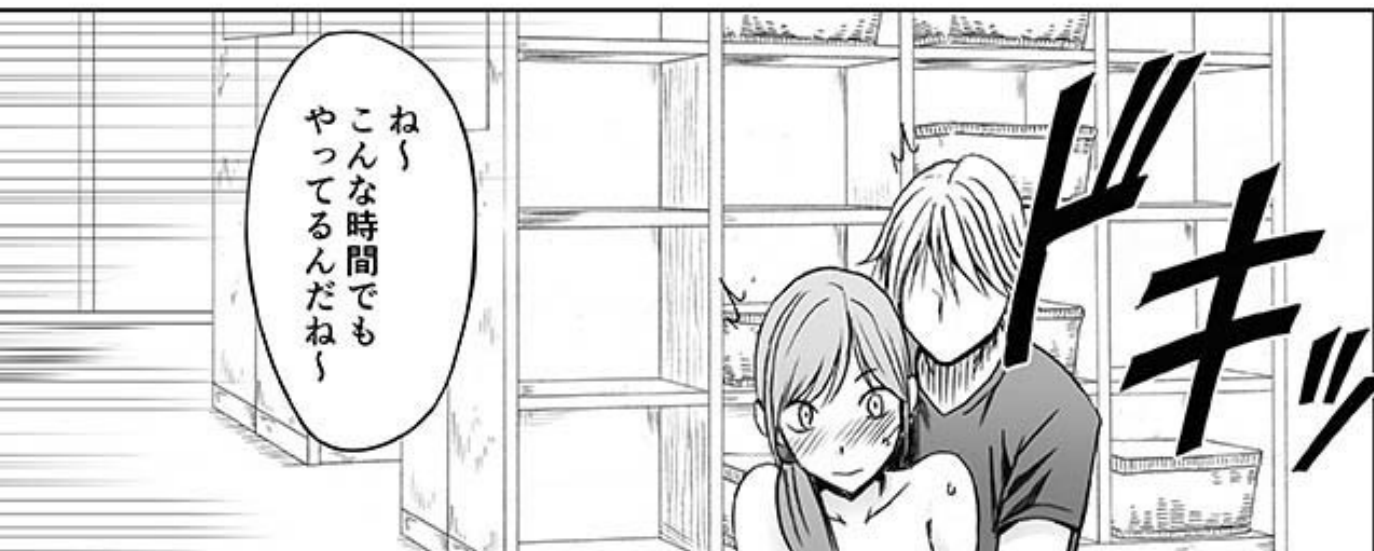


強引に
触られて
イカされたけど

最後まで
絶対に
させない

前は
なしくずし的に
やられたけど
今回は絶対に
挿入だけは
させない

そのつもりで
なんとか
抵抗してたん
だけ



ねゝ
こんな時間でも
やってるんだねゝ

ドキッ



突然
入り口のほうから
他のお客さんの
声がして





やばかったねー
姫子ちゃん

見つかるどころ
だったねー



その男は
こんな場所でも
私のカラダに
イタズラしてくるのを
やめなくて

見つかったら
やばいのに



声が出る……!

みんなに
気づかれる……!

アヒル……アヒル



声を出すことも
出来ない

暴れて水音を
立てても
気づかれる

そんな
どうしようもない
状況で……

理性が
とびそうになる
ギリギリの
ところで

私は必死に
ガマンし続けてた

でも
女の子たちは
なかなかお風呂を
出て行かなくて…

また
静かにイカされ
そうになった

その時—





ワンピ...!



入れられる!?

ズレ



...ズレ...

えっ...!

グッ



ズレ



タメタメ...

ズレ

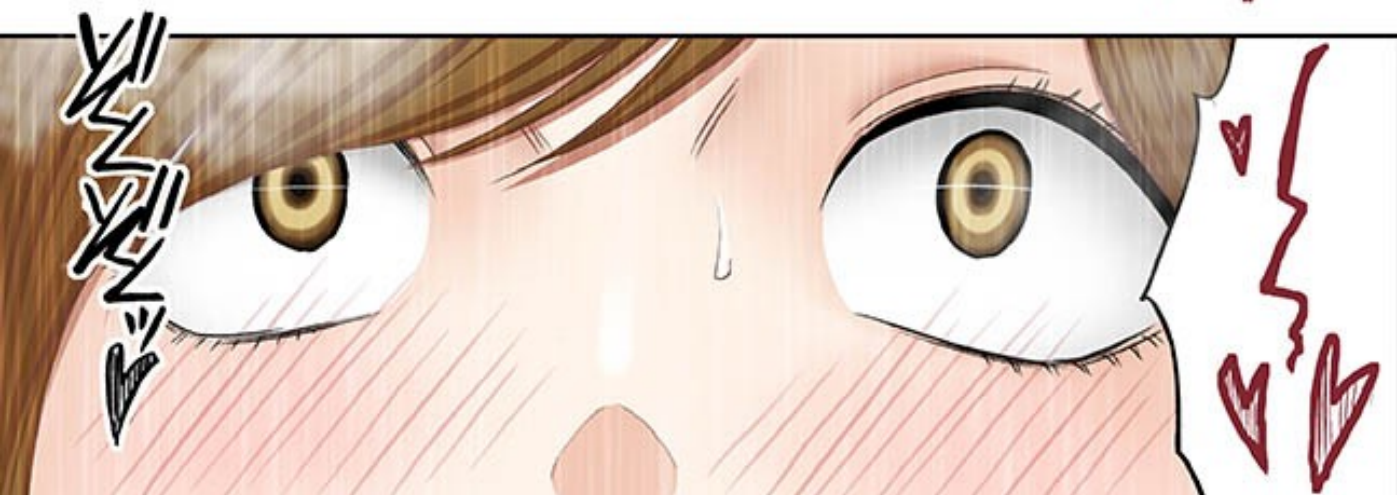


ワンピ...!

待って...!

待ってッ!

ズレ





信じられない!!

この人何者ぞて……!



ほら
声出すと
気づかれちゃうって

この男……!

ホントに最低!

異常な
空間だった

露天風呂で
他の客が
近くにいる

他の客は
ゆったりお風呂に
つかつてる

男は
私を犯して
反応を
楽しんでる

はっ

んっ
んっ
んっ

ガ
ガ
ガ

私だけが

快感も声も
ガマンするのに
必死になって

んっ
んっ

んっ
んっ
んっ

んっ
んっ
んっ



私は
今までに感じたことが
ないような感覚で
イカされ続けて



そのまま
入れられっぱなしで
10分近く



女の子たちに
気づかれないように
ゆっくり挿入
され続けて



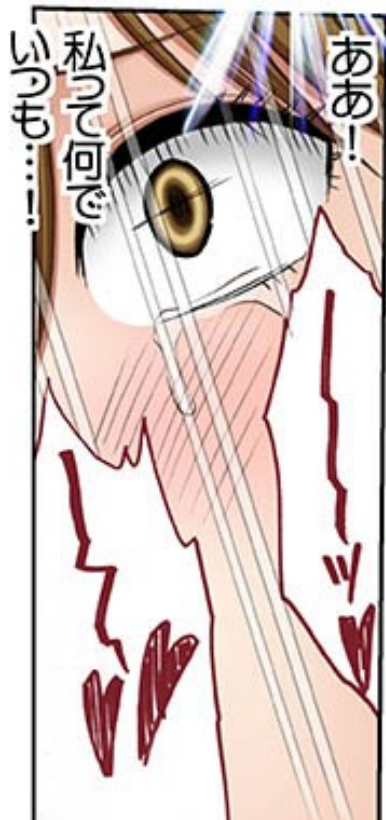
ゆっくり深く
挿入されることで



もう
私は

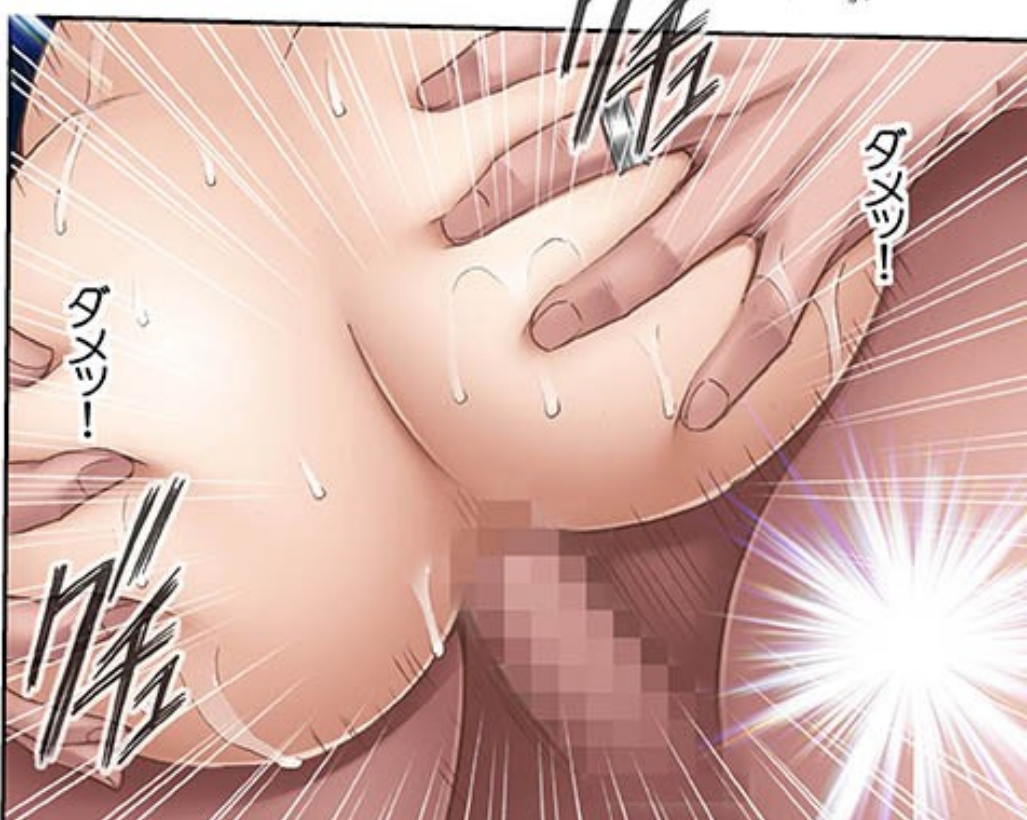
イキまくってるのと
パニックになってるのと
温泉でのぼせてるのと

頭がどうにか
なりそう



私...何で...
なんだ...

ああ!



ダメー!

ダメー!

